

蟹江町歴史民俗資料館 おうちミュージアム

かにえまつり
第21回 蟹江祭について(答えと解説)



(2023年(令和5年)の蟹江祭)

今回のおうちミュージアムでは、かにえまつり蟹江祭についてしょうかい紹介します。蟹江祭は、江戸時代に蟹江本町村であった地区で行われる祭りです。

かにえまつり
① 蟹江祭が行われる神社はどれでしょうか？

ア ^{とみよしたてはやじんじゃ はちけんしゃ} 富吉建速神社・八劔社

イ ^{かにえしんめいしゃ} 蟹江神明社

ウ ^{かしまじんじゃ} 鹿島神社

答えは「イ」 ^{かにえしんめいしゃ} 蟹江神明社です。

^{かにえしんめいしゃ} 蟹江神明社は蟹江町の中心部にあり、その西側には蟹江川が流れています。今からおよそ600年前の ^{むらまちじだい} 室町時代に ^{かにえじょう} 蟹江城ができた時、^{まも かみ} 守り神として建てられたと伝えられています。



江戸時代になると、神明社のまわりにはたくさんの家が増え、^{かにえほんまちむら} 蟹江本町村として

発展しました。神明社は、蟹江本町村やその周辺に住む人々の ^{うじがみ} 氏神として ^{しんこう} 信仰を集めました。

ちなみに ^{とみよしたてはやじんじゃ はちけんしゃ} 富吉建速神社・八劔社は蟹江町北部、^{かしまじんじゃ} 鹿島神社は蟹江町南部にあります。

かにえまつり
② 蟹江祭には、いくつの町内(地区)が ^{さんか} 参加しているでしょうか？

ア 6町内

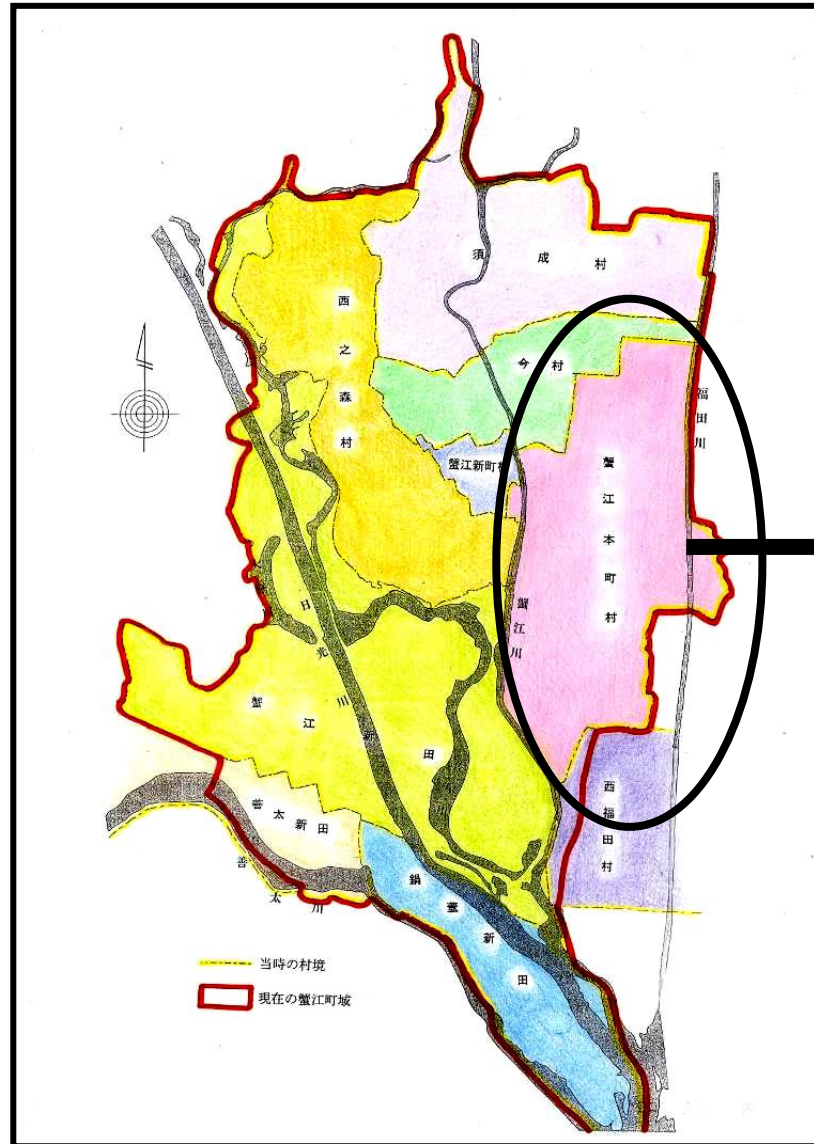
イ 7町内

ウ 8町内

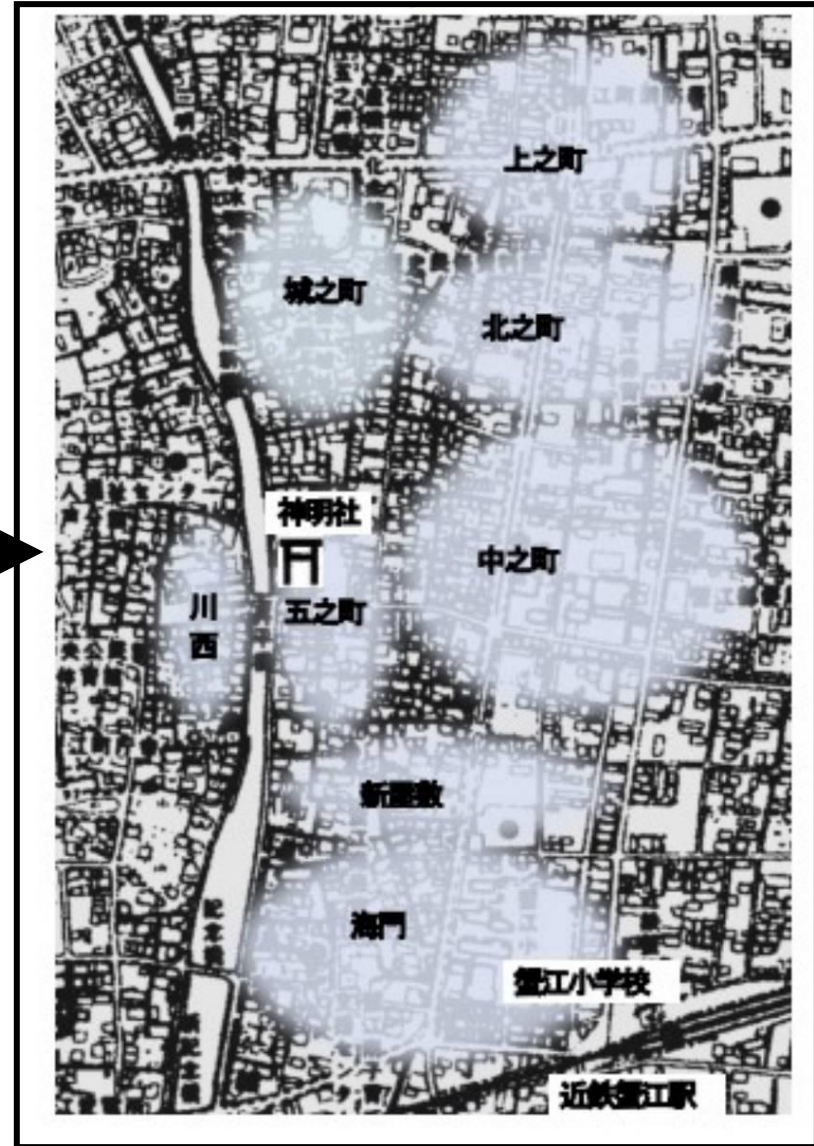
答えは「イ」 7町内です。

^{かにえまつり} 蟹江祭には、江戸時代に蟹江本町村であった7つの町内(^{かみのちょう} 上之町、^{しろのちょう} 城之町、^{きたのちょう} 北之町、^{なかのちょう} 中之町、^{ごのちょう} 五之町、^{しんやしき} 新屋敷、^{かいもん} 海門)が参加しています。なお、平成の終わりまでは ^{かわにし} 川西を加えた8町内が蟹江祭に参加していました(川西は現在お休みしています)。

かにえまつり さんか
蟹江祭に参加している各町内



かつての蟹江本町村



蟹江本町村における8町内

かにえまつり
③ 蟹江祭は、いつ行われているでしょうか。

ア 8月第1土・日曜日 イ 9月17・18日 ウ 9月最終土・日曜日

答えは、「ウ」9月最終土・日曜日です。

かにえまつり
蟹江祭は9月の最終土・日曜日に行われるようになりました。かつては9月17・18日に行われていましたが、祭りの日が平日だと会社で働く人や学校に通う子どもたちが参加できないため、1967年(昭和42年)から今のようにになりました。

かにえまつり
【 蟹江祭のスケジュールについて 】

かにえまつり ぎょうじ
蟹江祭の主な行事

①	9月1日	しゃむしょよ 社務所寄り
②	8～9月	まつりやかたじゅんぴ まつりばやし みちゆきおどりれんしゅう 祭屋形準備、祭囃子・道行踊練習
③	9月敬老の日	しし みこ はら 獅子・巫女のお祓い
④		みこ けいこ 巫女の稽古
⑤		せんまい じゅんぴ 饌米の準備
⑥	9月最終土曜日	子ども獅子
⑦		のぼりばたほうのう 幟旗奉納
⑧		まつりやかた まつりばやし みちゆきおどりほうのう 祭屋形・祭囃子・道行踊奉納
⑨		よきょう まつりやかたじゅんこう 余興(祭屋形巡行)
⑩	9月最終日曜日	子ども獅子
⑪		まつりやかた まつりばやし みちゆきおどりほうのう 祭屋形・祭囃子・道行踊奉納
⑫		よきょう まつりやかたじゅんこう 余興(祭屋形巡行)

① ^{しゃむしよよ}社務所寄り

毎年9月1日に蟹江祭に参加する全ての町内の代表者が蟹江神明社へ集まり、その年の祭りはどのように行うべきか、余興(出し物)はどうかを決めます。また、ここで決められたことは神明講へ伝えられます。神明講とは、祭りで雅楽を演奏したり、巫女に舞などを教えたり、神明社での祭りを取り仕切る人たちのことです。



各町内の代表者は、それぞれの町名が記された提灯を持参する。

② ^{まつりやかたじゅんぴ まつりばやし みちゆきおどりれんしゅう}祭屋形準備、祭囃子・道行踊練習

各町内の会所(公民館)では、当日に向けて祭屋形の準備や祭囃子・道行踊の練習が始まります。



祭屋形の準備



祭囃子の練習



祭囃子の練習



道行踊の練習

③ 獅子・巫女のお祓い

9月敬老の日の午後から、蟹江神明社に各町内の代表者や子ども会、神明講の人たち、巫女になる子どもたちが集まり、祭りが無事に行えるようにお祓いを受けます。



お祓いの様子

④ 巫女の稽古

巫女になる子どもたちは、神明講の人たちから舞や虫封じのお祓いについて学び、稽古をします。



神明講からの説明



お祓いの稽古

⑤ 饌米の準備

神明講の人たちが、虫封じのお祓いを受けた人に渡すための饌米(神様に奉納したお米)を準備します。



饌米の様子

⑥、⑩ 子ども獅子

祭り当日の午前中、各町内では子どもたちが獅子頭を持ち、「ワッショイ、ワッショイ」という掛け声を出しながら町内を回り、花(お祝いのお金)を集めます。



子ども獅子の様子

⑦ 幟旗奉納

祭り1日目の土曜日の午前中は、各町内が幟旗を持って蟹江神明社に集まります。幟旗には、各町内の名前が金色の糸で刺繍されています。

幟旗奉納では①神職、②各町内の代表者と幟旗、③雅楽を演奏する伶人の順で行列をつくり、神明社を出発してかつての蟹江本町村を回ります。幟旗奉納には北回りと南回りの2つのコースがあり、1年毎に変わります。行列が神明社に戻ると、作物がとれたことを神様に感謝するための神事が行われます。



各町内の幟旗



幟旗奉納の様子



雅楽を演奏する伶人



幟旗奉納の様子

まつりやかた まつりばやし みちゆきおどりほうのう
⑧、⑪ 祭屋形・祭囃子・道行踊奉納

祭り当日の2日間の午後、各町内は①代表者、②^{ふえ}笛を吹く人、③^{まつりやかた}祭屋形の順で行列をつくり、^{かいしょ こうみんかん}会所(公民館)を出発して^{かにえしんめいしゃ}蟹江神明社に向かいます。町内によっては、さらに^{みちゆきおどり}道行踊をする人が行列に加わります。

神明社へ^{とうちやく}到着すると、各町内の行列は^{まつりばやし}祭囃子を^{ほうのう}奉納します。道行踊がある町内は、祭囃子にあわせて道行踊を奉納します。

特に2日目の日曜日では、各町内が神明社へ奉納する^か順番が毎年変わるほか、祭囃子についても巫女によるお祓いを受けてから「^{みちゆきばやし}道行囃子」・「^{もどりばやし}戻囃子」という2つの囃子を2回ずつ奉納します。



巫女によるお祓い



蟹江神明社での奉納

よきょう まつりやかたじゆんこう
⑨、⑫ 余興(祭屋形巡行)

蟹江神明社で^{まつりばやし}祭囃子や^{みちゆきおどり}道行踊を^{ほうのう}奉納した後、神明社を出発してかつての蟹江本町村を2日間に分けてねり歩きます。各町内の^{かいしょ こうみんかん}会所(公民館)のほか、花(お祝いのお金)を^{もら}買った家の前でも^{みちゆきおどり}祭囃子や^{ひろう}道行踊を披露した後、それぞれの^{もと}会所(公民館)へ戻ります。



祭屋形のねり歩き



祭屋形のねり歩き



祭囃子の披露



道行踊の披露



会所(公民館)での休憩



会所(公民館)の様子



祭囃子の披露



道行踊の披露